

■ トンネル台帳 トンネル情報一覧表【様式 A-2】

[illegible]

トンネル記録の例

■ トシネル台帳 トシネル記録【様式 A-3】

[illegible]

2)点検調書【様式B】

①トンネル全体展開図

展開図に変状等の状況を記録する。トンネル毎に点検箇所に応じて適宜展開図を作成する。

トンネル全体展開図の例

■点検調書 トンネル全体展開図【様式B-1】

フリガナ	〇〇トンネル	路線名	国道〇〇	点検業者・点検者名	〇〇・〇〇	点検年月日	2014年1月1日
名称	〇〇トンネル	管理者名	〇〇河川国道事務所	調査業者・調査技術者名	〇〇・〇〇	調査年月日	2014年2月1日

トンネル全体展開図（覆工）

トンネル変状展開図

注1：本展開図は、見下げた状態で記載すること。
注2：覆工スパン番号は横断方向目地毎（矢板工法の場合は上半アーチの横断方向目地毎）に設定すること。
注3：横断方向目地の変状は前の出枚スパン番号で計上すること。
注4：1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

②変状写真台帳、変状展開図

変状等の写真を整理する。

変状・異常写真台帳の例

■点検調査 変状・異常写真台帳【様式B-2】

フリガナ 名称		路線名		国道〇〇号		点検業者・点検者名		点検年月日	
〇〇トンネル		〇〇河川国道事務所		〇〇河川国道事務所		〇〇・〇〇		〇〇・〇〇	
〇〇トンネル		〇〇河川国道事務所		〇〇河川国道事務所		〇〇・〇〇		〇〇・〇〇	
写真 番号	S2	写真 番号	S3	写真 番号	S3	写真 番号	S3	写真 番号	S3
変状 番号	1	変状 番号	1	変状 番号	1	変状 番号	1	変状 番号	1
対象 箇所	竣工	対象 箇所	竣工	対象 箇所	竣工	対象 箇所	竣工	対象 箇所	竣工
部位 区分	左アーチ	部位 区分	右側壁	部位 区分	右側壁	部位 区分	右側壁	部位 区分	右側壁
変状区分	外力	変状区分	材質劣化	変状区分	材質劣化	変状区分	材質劣化	変状区分	材質劣化
変状種類	ひび割れ	変状種類	ひび割れ	変状種類	ひび割れ	変状種類	ひび割れ	変状種類	ひび割れ
健全性	Ⅲ	健全性	Ⅲ	健全性	Ⅲ	健全性	Ⅲ	健全性	Ⅲ
変状の発生範囲の規模	幅2.0m長さ4.5m	変状の発生範囲の規模	幅2.0m長さ4.5m	変状の発生範囲の規模	幅2.0m長さ4.5m	変状の発生範囲の規模	幅2.0m長さ4.5m	変状の発生範囲の規模	幅2.0m長さ4.5m
前回点検時の状態	ひび割れ進行調査	前回点検時の状態	ひび割れ進行調査	前回点検時の状態	ひび割れ進行調査	前回点検時の状態	ひび割れ進行調査	前回点検時の状態	ひび割れ進行調査
調査(方針)	グラウトアンカー工	調査(方針)	グラウトアンカー工	調査(方針)	グラウトアンカー工	調査(方針)	グラウトアンカー工	調査(方針)	グラウトアンカー工
措置(方針)	幅3.5m長さ5.0mのひび割れ	措置(方針)	幅3.5m長さ5.0mのひび割れ	措置(方針)	幅3.5m長さ5.0mのひび割れ	措置(方針)	幅3.5m長さ5.0mのひび割れ	措置(方針)	幅3.5m長さ5.0mのひび割れ
メモ		メモ		メモ		メモ		メモ	
写真 番号	S7	写真 番号	S7	写真 番号	S7	写真 番号	S7	写真 番号	S7
変状 番号	1	変状 番号	1	変状 番号	1	変状 番号	1	変状 番号	1
対象 箇所	竣工	対象 箇所	竣工	対象 箇所	竣工	対象 箇所	竣工	対象 箇所	竣工
部位 区分	左アーチ	部位 区分	左アーチ	部位 区分	左アーチ	部位 区分	左アーチ	部位 区分	左アーチ
変状区分	漏水	変状区分	漏水	変状区分	漏水	変状区分	漏水	変状区分	漏水
変状種類	漏水	変状種類	漏水	変状種類	漏水	変状種類	漏水	変状種類	漏水
健全性	Ⅱ	健全性	Ⅱ	健全性	Ⅱ	健全性	Ⅱ	健全性	Ⅱ
変状の発生範囲の規模	目地部からの漏水、漏水	変状の発生範囲の規模	目地部からの漏水、漏水	変状の発生範囲の規模	目地部からの漏水、漏水	変状の発生範囲の規模	目地部からの漏水、漏水	変状の発生範囲の規模	目地部からの漏水、漏水
前回点検時の状態	目地部からの漏水、漏水	前回点検時の状態	目地部からの漏水、漏水	前回点検時の状態	目地部からの漏水、漏水	前回点検時の状態	目地部からの漏水、漏水	前回点検時の状態	目地部からの漏水、漏水
調査(方針)	漏水量調査	調査(方針)	漏水量調査	調査(方針)	漏水量調査	調査(方針)	漏水量調査	調査(方針)	漏水量調査
措置(方針)	漏水補工	措置(方針)	漏水補工	措置(方針)	漏水補工	措置(方針)	漏水補工	措置(方針)	漏水補工
メモ	目地部からの漏水、漏水	メモ	目地部からの漏水、漏水	メモ	目地部からの漏水、漏水	メモ	目地部からの漏水、漏水	メモ	目地部からの漏水、漏水

※ 点検調査を実施した場合は、実施後の写真を添付すること。
 ※ 点検調査を実施した場合は、実施後の写真を添付すること。
 ※ 点検調査を実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

点検結果、調査方針、措置方針及び過去の調査や措置の履歴を記録する。なお、点検結果総括表に関しては、トンネル本体工とトンネル内附属物の取付状態に分けて記載を行うものとする。

点検結果一覧表（トンネル本体工）の例

[illegible]

※※ 変状の除去が不完全で、緊急対応が必要な場合は対応方針欄に記入すること

点検結果一覧表（トンネル内附属物の取付状態）の例

[illegible]

※1スパンの覆工に複数の異常がある場合は、異常箇所毎に記入すること

④調査・措置の履歴の記録

変状の原因特定のためなど、調査等を実施した場合に記録する。

調査・措置の履歴の例

[illegible]

⑤覆工スパン別詳細展開図

覆工スパン別に変状等の展開図を抽出し、対策区分及び健全度について整理する。

覆工スパン別詳細展開図の例

■点検調書 覆工スパン別詳細展開図【様式 B-6】

アガナ	〇〇トンネル	経緯名	国道〇〇	点検業者・点検者名	〇〇・〇〇	点検年月日	2014年1月1日
名称	〇〇トンネル	管理者名	〇〇河川国道事務所	調査業者・調査技術者名	〇〇・〇〇	調査年月日	2014年2月1日

覆工スパン別変状詳細展開図

スパン別変状展開図

外力	材質劣化										漏水									
	実状					対策区分の判定					実状					対策区分の判定				
	番号	1	2	3	4	劣化	劣化	劣化	劣化	劣化	番号	1	2	3	4	劣化	劣化	劣化	劣化	
スパン毎健全性	1										1									
	2										2									
	3										3									
	4										4									
	5										5									
III (特記事項)	スパン毎健全性										スパン毎健全性									

注1: 本展開図は、見下げた状態で記載すること。
注2: 覆工スパン番号は横断方向目地毎(矢張り工法の場合は上半アーチの横断方向目地毎)に設定すること。
注3: 横断方向目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。
注4: 1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

3)診断調査【様式C】

診断結果を記録する。なお、記載にあたっては、覆エスパン毎とトンネル毎で記載する。

診断結果（覆エスパン毎）の例

■診断調査 診断結果（覆エスパン毎）【様式 C-1】

フリガナ	〇〇トンネル	路線名	広島市〇〇区役所	点検業者・点検者名	〇〇・〇〇	点検年月日	2014年1月1日
名 称	〇〇トンネル	管理者名	広島市〇〇区役所	調査業者・調査技術者名	〇〇・〇〇	調査年月日	2014年2月1日
覆エスパン番号	外力	材質劣化	漏水	覆エスパン番号	外力	材質劣化	漏水
S1	I II III IV	I II III IV	I II III IV	S6	I II III IV	2	I II III IV
箇所数 健全性				箇所数 健全性		2	
S2	I II III IV	I II III IV	I II III IV	S7	I II III IV	II	I II III IV
箇所数 健全性				箇所数 健全性			
S3	I II III IV	I II III IV	I II III IV	S8	I II III IV		I II III IV
箇所数 健全性				箇所数 健全性			
S4	I II III IV	I II III IV	I II III IV	S9	I II III IV		I II III IV
箇所数 健全性				箇所数 健全性			
S5	I II III IV	I II III IV	I II III IV	S10	I II III IV		I II III IV
箇所数 健全性				箇所数 健全性			
本体工				本体工			
変状箇所数・変状単位の健全性の判定				変状箇所数・変状単位の健全性の判定			

※ 外力に起因する変状は変状の種類毎に覆エスパン単位で計上し、材質劣化、漏水に起因する変状は変状単位で計上すること。

■診断調書 診断結果（覆エスパン毎、トンネル毎）【様式 C-2】

フリガナ		〇〇トンネル		路線名		点検業者・点検者				点検年月日					
名 称		〇〇トンネル		管理者名		調査業者・調査技術者名				調査年月日					
覆エスパン毎・トンネル毎の健全性の判定	健全性Ⅰ～Ⅳを覆エスパン毎に記入する	PS		S26		S52		S78		S104		S130		S156	
		S1		S27		S53		S79		S105		S131		S157	
		S2		S28		S54		S80		S106		S132		S158	
		S3	Ⅲ	S29		S55		S81		S107		S133		S159	
		S4		S30		S56		S82		S108		S134		S160	
		S5		S31		S57		S83		S109		S135		S161	
		S6	Ⅱ	S32		S58		S84		S110		S136		S162	
		S7		S33		S59		S85		S111		S137		S163	
		S8		S34		S60		S86		S112		S138		S164	
		S9	Ⅲ	S35		S61		S87		S113		S139		S165	
		S10		S36		S62		S88		S114		S140		S166	
		S11		S37		S63		S89		S115		S141		S167	
		S12		S38		S64		S90		S116		S142		S168	
		S13		S39		S65		S91		S117		S143		S169	
		S14		S40		S66		S92		S118		S144		S170	
		S15		S41		S67		S93		S119		S145		S171	
		S16		S42		S68		S94		S120		S146		S172	
		S17		S43		S69		S95		S121		S147		S173	
		S18		S44		S70		S96		S122		S148		S174	
		S19		S45		S71		S97		S123		S149		S175	
		S20		S46		S72		S98		S124		S150		S176	
		S21		S47		S73		S99		S125		S151		S177	
		S22		S48		S74		S100		S126		S152		S178	
		S23		S49		S75		S101		S127		S153		S179	
		S24		S50		S76		S102		S128		S154		S180	
	S25		S51		S77		S103		S129		S155		S181		
	集 計	健全性Ⅰ		健全性Ⅱ		健全性Ⅲ		健全性Ⅳ		トンネルの健全性					
		1		2				Ⅲ							

診断結果（覆エスパン毎、トンネル毎）の例

4)総括調書【様式D】

点検結果を総括するため、健全性の診断結果を整理するとともに、トンネルの展開図に、変状・異常箇所の写真を記録する。

トンネル点検総括表の例

■総括調書 トンネル点検総括表【様式D】

フリガナ 名 称	〇〇トンネル 〇〇トンネル	路線名	国道〇〇号	管理者名	〇〇河川国道事務所	緊急輸送道路 代替路の有無	あり
所在地	自 東京都〇〇区〇〇 至 東京都〇〇区〇〇	点検業者・点検者名 調査業者・調査技術者名	〇〇・〇〇 〇〇・〇〇	点検年月日 調査年月日	2014年1月15日 2014年2月1日	トンネル延長 トンネルの分類	L= 100 m 随上トンネル矢張工法
起点 緯度 経度	43.208229 140.329847	変状・異常 箇所数合計	トンネル 本体工	材質劣化 漏水 外力	Ⅱ 1箇所 Ⅱ 1箇所 Ⅱ 0スパン	Ⅲ 1箇所 Ⅲ 1箇所 Ⅲ 0スパン	トンネル毎 の健全性
終点 緯度 経度	43.207998 140.329054						附属物の 取付状態
トンネル変状・異常箇所写真位置図							

写真番号の記載例
写真-【覆工スパン番号】-【変状番号】

注1：本位置図は、見下げた状態で記載すること。
注2：覆工スパン番号は横断方向目地毎(矢張工法の場合は上半一丁の横断方向目地毎)に設定すること。
注3：写真番号に付する変状番号は、各覆工スパンの変状に対して新たに確認された場合は順次追加していくこと。
注4：横断方向目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。
注5：1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

※1 トンネル本体工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
※2 本体工の変状に対しては、判定区分Ⅱ～Ⅳ（対策実施後のⅠを含む）について記載すること。
※3 附属物の異常に対しては、判定区分Ⅲ（対策実施後のⅡを含む）について記載すること。

改訂履歴

改訂日	履 歴	改訂頁
平成27年1月	広島市トンネル点検要領の策定	全頁